

17. てんかん【講師：本田 涼子】

- てんかんとは、脳の神経細胞の異常な電気活動により引き起こされる症状。突然的に運動神経、感覚神経、自律神経、意識、高次脳機能などの神経系が異常に活動することで症状が出現する。そのため転換発作ではそれぞれの神経系に対応し、さまざまな症状を呈する。興奮と抑制のバランスが破綻した状態。
- てんかんの発症率は約 100 人に 1 人。あらゆる年齢で発症し、特に小児期と高齢者に多いのが特徴。
- てんかんの原因は遺伝子的、構造的、代謝的、免疫的、感染的な要因、原因不明と様々な異常によって発症する。多くは原因が明確になっていないものがほとんどである。

□ てんかんの発作症状

発作型	症状
全身強直間代発作	全身をガクガクさせる発作。いわゆる「大発作」
ミオクロニー発作	体全体、あるいは一部がピクッとする発作
スパズム	ピクンと全身に力が入る一瞬の発作
脱力発作	ガクンと倒れる、崩れ落ちる発作
強直発作	体全体、あるいは一部にグーと力が入る発作
間代発作	体全体、あるいは一部がピクピクする発作
運動症状を伴わない発作	意識のみが消失する発作(欠神発作、焦点意識減損発作)

てんかん診断は患者さんの臨床症状や脳波所見、その他の検査所見に応じて 3 つのレベルで分類を行う。適切な治療の為には正しい診断が必要であり最初のとっかかりとなる重要な要素が発作型をきちんと把握することが大事である。

★ 小児では治療がうまくいかないことで発達や行動面に影響を及ぼす場合があるということ、正しい診断と治療を適切なタイミングで行うことが重要であることを学んだ。

18. 起立性調節障害について【講師：北島 翼】

- 起立性調節障害とは起き上がった時に体(特に脳)への血流が大きく低下する病気。
 - 起立性障害の治療として、規則正しい生活を心がける、無理のない範囲で運動を行う、水分をしっかりと摂る。
- 薬物療法：症状や血流の様子に合わせた対症療法(例 ミドドリン、プロプラノロールなど)
- 起立性調節障害の予後 身体症状の残存率は数年後でも 20%～40%、軽い症状は成人してからも続く場合もあり翌年季節性で再燃する可能性もあることを念頭に置く
登校などに支障のある中等症以上では 1 年後の回復率は約 50%。2～3 年後は約 70%～80% という報告がある。

★ 自分でも意識していない体調の悪さが隠れていることもあることを頭に入れて原因に注目するのではなく本人の自覚症状に寄り添うことが大切ということを学んだ。

19. 子どもの高次脳機能障害【講師：太田尾 有美】

- 高次脳機能障害とは脳の中で機能的に高い部分が病気やケガなどにより出る障害のこと
 - 高次脳機能障害の原因：原因は大きく分けて 2 つ⇒
脳の病気、事故による脳損傷
 - 高次脳機能障害の症状：①記憶障害②注意障害③遂行機能障害④社会的行動障害
 - 高次脳機能障害の課題：医療と教育の連携、支援者等への理解促進、教育現場への普及啓発等
- ★ 体が回復しても認知面が後から顕著に表れてくるかもしれない、環境によって症状に変化がある

